



今必要な「自律」とは、自ら考える習慣をつけさせること

日本人は諸外国に比べて自己肯定感が低いというデータがあります。その原因の一つは、日本の教育に「当事者意識」を育てる意識が足りない指摘されています。今の教育は、大人が与える側において、子どもは与えられることになれてしまい、自分で考えたり、自分で決めたりする能力が育っていないと言われています。

自分で考えられなくなったこどもは、うまくいかないことがあると、大抵のこどもは人のせいにします。例えば、授業が面白くないのは先生のせいだし、自分のクラスが仲良くなれないのは担任の先生がしっかりしていないからだと考えます。



このように、自分で物事を考えることのできないこどもは、総じて自己肯定感も低いことが多く、他者に対する優しさもなくなってしまいます。誠風中学校では、こどもが「自分で考え、自分で判断し、自分で決定して、行動する」ことができるよう努めていきますので、ご家庭でも「こどもさんに、自ら考える習慣がつくような家庭教育」をお願いします。

お互いの着地点を見つけることのできる対話力が必要

日本人は対話の苦手な人が多いとよく言われます。違う意見を持った人と議論することになれていないので、すぐに感情的な対立になってしまいがちです。したがって、考え方の対立ではなく、感情的な対立だから、よけいに解決できなくなるし、最終的な目標にも届かなくなります。意見が違うのは当たり前で、だからこそ感情の問題にしないで、お互いの着地点を見つけるのが対話です。



対立することが問題ではなく、対立してからどうするのか、というところが大事だということをごどもに教えていきましょう。

大阪市立大空小学校の初代校長の木村康子先生は、教育とは「やり直しのできる子を育てることだ」と仰っています。対立が起きたときつい感情的になって、要らないことを言ってしまった、相手を傷つける言葉を使ってしまったとか、思わぬ方向に、悪い方向に流れてしまうことがあります。それを振り返ったときに、ほんとうは自分がどうすればよかったのか、これからどうすればいいのかと考えたときに、人間はふたつの方法をとることが多いそうです。一つは修復に向けて動くこと、もう一つは、ごまかすことです。『「修復のリスクと、ごまかすリスクを天秤にかけて、修復を選択したほうがリスクは少ないんだよ」と教えることが教育』だと、木村先生が言われているように思います。

これは人間の特性であり、素晴らしいのは、「やり直し」ができることであり、それを認めることができれば、自己肯定感もきっと上がるはずです。

大人が意識して、自律するこどもをみんなで育てませんか？